

「学び」イベント情報 募集中!!

Web版は随時更新。紙版次号向けには
8月末までに情報をお寄せください。

掲載料は無料です。

9 SEP 仙台文学館ゼミナール 2023 「小池光短歌講座」第154回

9月9日(土) 13:30▶15:40 有料 要申込
講師 小池光氏(歌人) ※申込締切 8/16
場所 仙台文学館 定員 60名
主催者 仙台文学館 問合せ TEL 022-271-3020

前期基礎講座: 吉野作造の文章を読んでみよう [欧州留学後の吉野作造は第一次世界大戦をどのようにみていたか]: 第5回~国際平和主義、国際協調主義を中心に その2~

9月9日(土) 14:00▶16:00 無料 要申込
講師 氏家仁氏(吉野作造記念館館長)
場所 吉野作造記念館
主催者 吉野作造記念館 問合せ TEL 0229-23-7100

東北工業大学「地域未来学」講座9 「震災から12年を経た地域の復興と新しい防災の取組」(オンライン)

9月9日(土) 14:45▶15:45 無料 要申込
講師 今村文彦氏(東北大学災害科学国際研究所津波工学研究分野教授)
場所 Zoomによるオンライン開催 問合せ TEL 022-305-3818
主催者 東北工業大学地域連携センター 地域未来構築事業地域未来学

東北工業大学「地域未来学」講座10 「ミクロ・マクロな視点から災害対応を考える」(オンライン)

9月12日(火) 18:00▶19:00 無料 要申込
講師 島山雄豪氏(東北工業大学ライフデザイン学部生活デザイン学科教授)
場所 Zoomによるオンライン開催 問合せ TEL 022-305-3818
主催者 東北工業大学地域連携センター 地域未来構築事業地域未来学

栗原の消防士から脂肪の消防士に~日本一になった身体づくりからつながる宮城発の健康づくり~六軒丁学舎(ろっけんちやうがくしゃ) 2023~新しい「学び」場⑥~

9月16日(土) 10:00▶12:00 無料 要申込
講師 後藤聡氏(UGOOQ FITNESS&GYM代表、全米アマチュアボディビルダー協会主催オープンOver40クラス優勝)
場所 土曜キャンパス ホーイ記念館 コラトリエ・リエゾン 定員 30名
主催者 東北学院大学研究支援課 問合せ TEL 022-264-6362

奥松島縄文村講座「縄文を語る!」講座3「里浜貝塚が明らかにした縄文人の暮らし」

9月17日(日) 10:00▶12:00 無料 要申込
同時開催:「里浜貝塚ガイドツアー」あり(午後の部 13:00▶15:00)
講師 菅原弘樹氏(奥松島縄文村歴史資料館)
場所 奥松島縄文村歴史資料館 定員 50名
主催者 奥松島縄文村歴史資料館 問合せ TEL 0225-88-3927

第22回みちのくウイルス塾(第70回日本ウイルス学会学術集会市民公開講座)

9月23日(土) 14:00▶ 無料 要申込
講師 中村桂子氏(JT生命誌研究館名誉館長)他 FAXで事前予約必要
場所 せんだいメディアテーク7階スタジオアター 定員 150名(先着)
主催者 仙台医療センター・ウイルスセンター 問合せ FAX 022-293-1173

みやぎ県民大学「SDGsと地域防災」(全4回)

9月30日(土)・10月14日(土) 10:30▶12:00 無料 要申込
講師 尚綱学院大学教員
場所 尚綱学院大学地域連携交流プラザ 定員 各回 20名
主催者 宮城県教育委員会・尚綱学院大学 問合せ TEL 022-381-1490

東北工業大学「地域未来学」講座11 「相互理解を深めるコミュニケーションと情報技術」(オンライン)

9月30日(土) 13:30▶14:30 無料 要申込
講師 坂本泰伸氏(東北学院大学情報学部データサイエンス学科教授)
場所 Zoomによるオンライン開催 問合せ TEL 022-305-3818
主催者 東北工業大学地域連携センター 地域未来構築事業地域未来学

東北工業大学「地域未来学」講座12 「東北地方太平洋沖の地震科学」(オンライン)

9月30日(土) 14:45▶15:45 無料 要申込
講師 日野良太氏(東北大学大学院理学研究科地球物理学専攻教授)
場所 Zoomによるオンライン開催 問合せ TEL 022-305-3818
主催者 東北工業大学地域連携センター 地域未来構築事業地域未来学

第62回

名著への旅



『暗獄怪談 憑かれた話』

鷺羽大介 著
竹書房

(2022年12月7日 初版発行)

本来、あまり怖い話は得意ではない。もちろん靈感は皆無、体験談も持ち合わせていないため、初めのうちはやや戸惑い気味にページを捲った。しかも本書は「実話怪談」というジャンル。誰かの本当に体験した話と思うと恐怖も増す。あとがきと解説から読むとどうもそのジャンルの正統派(?)ではないらしい。変化球から手をつけるのも面白い。

フィクションに慣れすぎていて、カタルシスを安易に求めると肩透かしを食らうかもしれない。不思議なことは不思議なままでというのがあるべき姿なのだろうか。80話収録されているうち、個人的なお気に入りには「永遠の魔女」「キッズセラピー」「運命の人」「すり抜けていった女」「早く来てよ」「リアルタイム」。特に「永遠の魔女」はその後について取材を続けたら壮大なドキュメンタリー映画になりそうだ。(完成前に何か起きそうだが……)

我々は怖がるという体験すらエンターテイメントにしてしまう貪欲な生き物だ。思えば、怪談とは、小泉八雲のころから書くというより蒐集するものだったのかもしれない。一種の【聞き書き文学】といえるだろう。「リアルタイム」には後日談がありそうとのこと。それを楽しみに正統派の実話怪談も読んでみたくなった。すでに沼にハマりそうである。(注)

あなたの「学び」や「文化」をカタチに

これまで学んだことや郷土史など調査してきたことを冊子にまとめてみたい、短歌・俳句・書画・写真など自分の作品を本にしてみたい、とお考えになったことはありませんか? 「まなびのめ」を発行している笹氣出版印刷は、学術関係の書籍・論集はもとより、一般の方の「自分の本」づくりでも、これまで多くのお役立ちをさせていただいてきました。

どうまとめたいのか、希望の装丁でつくれるのか、などなど、どんなことでもまずはお気軽にご相談ください。

笹氣出版印刷株式会社
☎022-288-5555 ✉sasaki@sasappa.co.jp



学びの庭におじゃまします

次号テーマ: 「未定」

2023年10月5日発行予定

「気」になる「氣」…当社は言葉を組版する職業として、漢字の本来の成り立ちである「本字」を大切にしたいという思いがあり、社名に使われる本字の「氣」を使用することでその思いを表しています。

応募先 / 問い合わせ先

〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町8番45号
笹氣出版印刷株式会社内「まなびのめ」編集部
FAX 022-288-5551
TEL 022-288-5555
(FAXは24時間受付 電話受付時間 10:00~16:00 土・日・祝日除く)
✉ manabinome@sasappa.co.jp

学術の世界と市民をつなぐ情報誌「まなびのめ」第61号/発行日2023年7月5日
企画・編集 「まなびのめ」編集部/発行 笹氣出版印刷株式会社

「まなびのめ」編集部 川又進 菅野麻実 庄司真希
オブザーバー: 笹氣義幸 寺田征也(明星大学) 協力: 株式会社市瀬 有限会社阿部正志製本

©笹氣出版印刷株式会社 無断で複写、複製、転載することを禁じます。
この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。用紙はFSC® 認証材および管理原材料から作られている紙を使用し、インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。



ご自由にお持ち帰りください。

TAKE FREE 無料

図書カード懸賞付
クイズあります
詳しくは中面へ

学術の世界と市民をつなぐ情報誌

まなびのめ

季刊誌 第61号
2023. 7

学びの庭におじゃまします

おそれ

怪異と幻想の世界を描く日本文学



宮城学院女子大学 学芸学部 教授
(古典文学 演劇・芸能)

深澤 昌夫 先生

不安や恐怖の正体に生物学で迫る



東北大学大学院 情報科学研究科 助教
(神経科学・神経内分泌学・情報生物学)

内田 克哉 先生

- これからの主な「学び」イベント 39件 掲載!
- 「学び」イベント に行ってきました
- 名著への旅 『暗獄怪談 憑かれた話』(鷺羽大介)
- Voice Park



Web版 随時更新中! まなびのめ
http://manabinome.com/



JQA-EM4031

発行 笹氣出版印刷株式会社

これからの主な 「学び」イベント 有料 無料 要申込 申込不要

「学び」イベント

▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

詳細は Web 版に掲載しております。http://manabinome.com/

ここに掲載する情報は、主催者である各研究・教育機関や施設が公開している情報を基に掲載していますので、当社の責任で開催を保証するものではありません。日時、内容等に変更がある可能性がありますので、詳しくは各問合先へご確認ください。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定されていたものが中止・延期となることがあります。最新の情報は主催者のホームページ等でご確認をお願いいたします。

定期開催

トワイライトサロン 「土佐誠の宇宙が身近になる話」 毎週土曜日 17:00▶17:45 無料 申込不要

講師 土佐誠氏(仙台市天文台名誉台長)
場所 仙台市天文台オープンスペース
主催者 仙台市天文台 問合せ TEL 022-391-1300

7 JUL

企画展 「社交と嗜好品 ~交際の場の飲食物~」 7月15日(土)~11月12日(日) 9:00▶16:45(入館は16:15まで) 有料 申込不要

場所 仙台市歴史民俗資料館
主催者 仙台市歴史民俗資料館 問合せ TEL 022-295-3956

仙台大学川平キャンパス 公開講座 「新体操はどのように採点されるのか」 7月22日(土) 10:00▶11:30 無料 要申込

講師 神野未来氏(仙台大学講師)
場所 仙台大学川平キャンパス 定員 30名
主催者 仙台大学 問合せ kikou@sendai-u.ac.jp

【学都仙台コンソーシアム サテライトキャンパス公開講座 2023】 「脚は“第2の心臓”~むくみと運動の関係~」 7月22日(土) 10:30▶12:00 無料 要申込

講師 小野部純氏(東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学理学療法学専攻講師)
場所 仙台市市民活動サポートセンター6階セミナーホール 定員 50名(先着)
主催者 学都仙台コンソーシアム・東北文化学園大学地域連携センター 問合せ TEL 022-233-3451

【学都仙台コンソーシアム サテライトキャンパス公開講座 2023】 「心臓病のリハビリテーション:健康寿命の延伸を目指して」 7月22日(土) 13:30▶15:00 無料 要申込

講師 伊藤修氏(東北医科薬科大学医学部リハビリテーション学教室・教授)
場所 仙台市市民活動サポートセンター6階セミナーホール 定員 50名(先着)
主催者 学都仙台コンソーシアム・東北医科薬科大学 問合せ FAX 022-290-8860

館長講座 第4回 「教育と史跡:仙台城二の丸から」 7月22日(土) 13:30▶15:00 無料 要申込

講師 阿子島香氏(東北歴史博物館館長)
場所 東北歴史博物館3階講堂 定員 290名(先着)
主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106

第25回 JDC 市民公開講座 「With コロナ/ Post コロナ時代のうつへの対応」(オンライン) 7月22日(土) 16:20▶18:20 <https://www.c-linkage.co.jp/jsmd20/public-lecture.html> 無料 要申込

講師 張 賢徳氏(日本うつ病センター副理事長・六番町メンタルクリニック院長)他
場所 Web開催 共催 一般社団法人日本うつ病センター(JDC)他
問合せ TEL 06-6210-5619 (JTB市民公開講座事務局 中島・堀)

東北工業大学市民公開講座 No.570 《令和5年度高大連携事業講座》 「川の管理って難しいんですね…」(オンライン) 7月28日(金) 18:00▶19:15 無料 要申込

講師 菅原景一氏(東北工業大学都市マネジメント学科准教授)
場所 Zoomによるオンライン開催 定員 200名
主催者 東北工業大学 地域連携センター 問合せ TEL 022-305-3810

仙台大学川平キャンパス 公開講座 「スポーツパフォーマンス分析の基本と実際-バレーボールや野球、バスケットボール、サッカーなどを例に-」 7月29日(土) 10:00▶11:30 無料 要申込

講師 石丸出穂氏(仙台大学准教授)
場所 仙台大学川平キャンパス 定員 30名
主催者 仙台大学 問合せ kikou@sendai-u.ac.jp

学びの庭に
おじゃまします

「夏と言えば怪談」というようなところから、恐怖・不安など「おそれ」をテーマに選びましたが、恐れ、怖れ、畏れなど、文学の世界には奥深い「おそれ」があるようです。宮城学院女子大学・深澤昌夫先生のお話から、日本文学の「おそれ」を感じてみてください。

怪異と幻想の世界を描く日本文学

昔から怪談好きだった日本人

本学では4年前まで、「夏の怪談教室」と題する公開講座を行っていました。副題は「怪異と幻想の日本文学」です。私は怪談を専門的に研究しているわけではありませんが、企画と講話を担当いたしました。2016年の第1回から毎回ほぼ満席で、市民の皆さんには大変好評でした。新型コロナウイルスの感染拡大で中断し、現在は私が多用を極めているため、しばらくお休みをいただいております。いずれまた再開する予定です。

他の先生にもご協力いただいてホラー映画なども取り上げましたが、皆さん本当にこわいものがお好きですね。という私も、実はタレントの稲川淳二さんが語る怪談の大ファンです（笑）。しかしなぜ私たちは、わざわざ「こわいもの」や「おそろしいもの」を求めるのでしょうか。そしてなぜ科学の発達した現代に生きる私たちは、何百年も前に成立した怪異や幻想の物語を受け入れたり、登場人物に共感したりするのでしょうか。

私が講話で主に取り上げたのは、世阿弥の能「井筒」、江戸時代の怪談「牡丹灯籠」、泉鏡花の戯曲「天守物語」の3つです。世阿弥が室町期に大成した能では、「井筒」に限らず、しばしば死者が生者に語りかけます。そして僧侶などの聞く側は、ひたすら恐れるのではなく、共感や敬意をもって耳を傾けるのです。

江戸末期から明治期にかけて活躍した落語家の三遊亭円朝は、怪談噺の創作で知られ、「牡丹灯籠」はその代表作です。



宮城学院女子大学 学芸学部 教授
専門=古典文学 演劇・芸能

深澤 昌夫先生

〈プロフィール〉(ふかさわ・まさお) 1963年岩手県生まれ。東北大学大学院 文学研究科 博士課程中退。修士(文学)。著書に『現代に生きる近松 一戦後60年の軌跡―』、共著書に『日本の舞台芸術における身体 一死と生、人形と人工体―』など。

落語家は人を笑わせるだけでなく、噺家の別名もある通り、怪談や人情ものなど多彩な物語を口演します。「牡丹灯籠」で描かれるのは、亡霊である女性と生きている男性との切ない恋愛です。単に恐ろしいだけではない、人の心の深さや運命の残酷さが、現代の私たちの胸にも迫ります。

「天守物語」は1917年(大正6)に発表されました。魔界の存在である女性と若い武士との恋物語が、姫路城の天守閣を舞台に繰り広げられます。1951年(昭和26)に初めて上演され、その後は歌舞伎やオペラにもなりました。「牡丹灯籠」も何度も映画や演劇になっていて、私たちにはおなじみですね。

このように、日本の文学にとって怪異や幻想は重要なテーマです。怪談だけではなく、古代の「記・紀」神話も、かぐや姫の『竹取物語』も、天上の世界や死後の世界など、この世のものではない存在を描いています。『源氏物語』『今昔物語集』『平家物語』にも、不思議な出来事や亡霊が当たり前のように出てきます。その『平家物語』を、琵琶法師が怨霊たちに弾き語りで聞かせる「耳無し芳一」の物語は、小泉八雲の『怪談』によって、明治期に広く知られるようになりました。日本文学における怪異と幻想の伝統は、古代から脈々と受け継がれているのです。

もう一つの見えない世界

日本の社会は明治維新と敗戦によって大きく変わりました。近代以降は合理性が尊重され、文学でもリアリズムが主流であるかのように思われています。戦後は欧米の価値観がさらに普及しました。そして21世紀の現代はグローバル化の波に洗われて、日本の伝統的な感覚や文化は、すっかり影が薄くなってしまったかのようです。

しかし私はそうは思いません。「目に見えるものが全てではない」「目には見えないもう一つの世界がある」という日本人の感覚や文化は、文学、芸能、映画、さらにはマンガ、ゲームなど様々な形で表現され続けています。海外から入ってきたものに抵抗し、あるいはそれを取り込みながら、いっそう発展しているとさえ言えるでしょう。

日本の宗教は現世利益的です。しかし一方で、あらゆるものに命や魂が宿っていると考えたり、森や山に神を感じて大切にしたりする心を、今も多くの人が持ち続けています。また先祖の供養では仏教のしきたりを守りつつ、キリスト教の行事も楽しむなど信仰には寛容です。これらの宗教が生まれた国以上に、

民衆的・市民的な広がりを見せることも珍しくはありません。

たとえ非合理的と言われても、科学で証明されていなくても、私たちは「目には見えない存在」「もう一つの世界」を大切にしてきました。怪談も幽霊も妖怪も、単なる娯楽や流行として消費するのではなく、そこに人間や世界の真実を見て、文化として現代へとつないできたのです。

「おそれ」を漢字で書くと、恐れ、怖れ、畏れなどになります。畏は「かしこまる」とも読みますね。「畏敬の念」という言葉もあって、これは相手の威厳や威光を敬う気持ちを表しています。目には見えない存在、もう一つの世界をおそれることは、決してマイナスだけの感情ではないのです。

地震、津波、噴火、洪水と、日本の歴史は災害の歴史であり、日本列島は災害列島です。人は無力さを感じ、自然の大きな力を畏れ、敬ってきました。東日本大震災でご家族を亡くした方が、夢で会いに来てくれた、実際に姿を見た、とおっしゃることがあります。災害で突然の不幸に見舞われた方のそうした話を否定することなく、傾聴したり共感したりするのも私たちの文化です。被害をもたらすもの、未知のものは、確かにおそろしいでしょう。しかし、たとえそれが幽霊であったとしても、自分を愛してくれた者、よく知る者を受け入れ、見守ってくれていると思うことは、決して悪いことではないはずです。

東北の鬼を訪ねる旅へ

先ほどご紹介した泉鏡花に学んだ、岩手県出身の佐々木喜善という人をご存じでしょうか。文学を志し、鏡花の筆名にあやかって「鏡石」という筆名を用いたこともあります。彼が鏡花と同世代だった柳田国男の知遇を得て、故郷の伝説や民間信仰を語ったものが、有名な『遠野物語』に結実したのです。喜善は岩手・東北に伝わる伝承を調べて自ら本にまとめ、これが縁で10歳下の宮沢賢治とも親交を結びました。

賢治にも「ざしき童子のはなし」など伝承に取材した童話がありますが、代表作である「銀河鉄道の夜」なども、「目には見えない存在」「もう一つの世界」を描いた幻想的な作品です。童話集『注文の多い料理店』の序文に、賢治は「ほんとうにもう、どうしてもこんなことがあるようでしかたないということを、わたくしはそのとおり書いたまです。」と記しました。

もしかしたら東北は怪異と幻想の宝庫であり、そうした物語が生まれやすい土地なのかもしれません。東北ならではの人間

懸賞

図書カードを
当てよう!

まなびのめクイズ

正解者の中から抽選で3名様に
図書カード1000円分をプレゼント

Q.1 深澤先生が研究の道に進むきっかけとなった小説集の著者名・書名は?

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。内田克哉先生の記事もご覧ください。

応募方法

はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え2つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部まで応募ください。
※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2023年9月10日 当日消印有効



と自然との、あるいは人知を超えた存在との交流や葛藤が、彼らの優れた仕事につながったことだけは間違いのないでしょう。

歴史的に東北は、征服され、支配され続けてきました。一方でそれに抵抗し、乗り越えることで力を得て、独自の文化を育んでもきたのです。そして「鬼」こそは、その象徴に他なりません。鬼はキと読むと、死者の魂を意味します。また鬼才という言葉があるように、常識を超えた能力のことも指すのです。東北各地には、平安期の征服者である坂上田村麻呂を讃える史跡や伝承が、数多く残されています。しかし抵抗した蝦夷たちの事跡も、「退治された鬼たち」や「勇猛だった首領」の物語として、今に伝えられ続けているのです。

本学で私が担当する「東北の文学・文化・ことば」という授業では、学生たちが架空の旅行会社の社員になって、読者を「鬼伝説の旅」へと誘うパンフレットを作っています。「鬼社長」はもちろん私です（笑）。社員たちは宮城県の鬼首や岩手県の鬼死骸を訪ねて地名の由来を調べ、鬼剣舞の顔出しパネルで記念撮影し、福島県の安達ヶ原でおにばらソフトに舌鼓を打ちました。こわいものやパワースポットが大好きな、彼女たちにしか作れない力作です。

思い返せば私が大学生のとき初めて本格的に取り組んだのは、上田秋成の怪異小説集『雨月物語』でした。研究者になったのは、おそろしくも美しい物語に魅せられたことがきっかけだったとも言えそうです。

皆さんも「おそれ」を遠ざけるだけでなく、文芸や芸能として親しみ、そこからさらに調べたり、知ったりすることによって学びを深めていただければと思います。

(取材= 2023年5月22日/

宮城学院女子大学 人文棟4階 深澤研究室にて)

学びの庭に
おじゃまします

「不安や恐怖の感じ方に性差はあるか 分界条床核における性差」という東北大学のプレスリリースを発見。なにやら難しそうな話と思いつつ、この研究を手がけた東北大学・内田克哉先生に取材を申し込むと、とても平易な言葉でフレンドリーに「おそれ」のお話をしていただきました。

不安や恐怖の正体に生物学で迫る

医療につながる生物学研究を

医学部や工学部で学生の教育に携わりながら、大学院で脳に関する情報生物学を研究しています。生物に興味を持ったきっかけは、小学校低学年の時に親に買ってもらった「ちのはなし」という堀内誠一の絵本でした。「どうみやく」「せっけっきゅう」など、ひらがなで書かれてはいますが、本格的な内容です。「人の体って面白い!」と、夢中で何度も読み返しました。

中学・高校と生物の授業は楽しかったものの、物足りずに生物学の入門書に親しみました。大学ではコウモリなどの性ホルモンを調べ、大学院に進んでからは、脳をはじめとする中枢神経に関心を移します。以来、マウスなどの動物実験を通して、脳、神経、そしてホルモンの働きやその分泌メカニズムについての研究を重ねてきました。

今回のテーマは「おそれ」とのことですが、人間以外の動物にも、不安や恐怖といったマイナスの感情は存在します。これらは急で強い感情ですから、「情動」という言葉の方が適切かもしれませんね。人間以外の動物は言葉を持たないので、その情動について知るには工夫がいります。ストレスを感じると分泌される、ストレスホルモンの種類や量を調べる方法は特に有効です。「マウスのホルモンを調べて人間のことが分かるのか」と言われれば、答えは「はい」です。サルのように人間に近い動物だけでなく、哺乳類のホルモンは、皆とても近い構造や働きをしています。一方で「脳を詳しく調べれば、人の心が分かりますか」と問われれば、現時点での答えは「いいえ」です。コンピュータが発達したおかげで、脳や神経やホルモンに関する分析は、遺伝子のレベルまで急速に進みました。私の専門である情報生物学とは、まさにそうした学問です。しかし調べれば調べるほど、新しいことが分かれば分かるほど謎が増えていくばかりで、まったくゴールは見えません。



もちろん生物学の研究成果の医療への応用は進んでいますし、これからも有望です。例えば、うつ病の方に処方される抗うつ薬は、神経細胞の間で情報を伝達する物質をコントロールすることで効果を発揮します。生物学の研究者には生命の進化に関心を向ける人が多いのですが、私はかつて医師を志していたこともあって、医療につながる研究に力を入れてきました。精神科で働いている医師や、やはりマウスなどを用いて実験に励んでいる医学者とは、情報を交換し、互いの研究に学ぶことで、患者さんのためになる成果を上げられるよう努めています。

おそれると出るストレスホルモン

人間は不安や恐怖といった「おそれ」を避けたい、遠ざけたいと思っています。しかしこうした情動は人間にとって必要不可欠であり、一概にネガティブなものとは言えません。

私たちの祖先は、自然の中で狩られ、食べられてしまう危険と隣り合わせで生きていました。夜の闇や、背の高い植物が生い茂る場所には、トラなどの捕食者が潜んでいるかもしれません。自分や子孫の命をつなぐため、そうした場所や状況をおそれる必要があったのです。そして文明が発展しても、「おそれ」は失われませんでした。何らかの危険を感じたら、警戒し、近寄らないようにしなければならないからです。

一方で現代に生きる私たちは、怪談を聞いたりホラー映画を見たり、ジェットコースターに乗ったりして、一時的な不安や恐怖を楽しめるようになりました。また、未経験の大きな仕事を任されるなどすると不安を感じますが、それをやり遂げることで、「おそれ」を乗り越える喜びや達成感を味わうことができます。これは脳の神経細胞の間で、「予想外の興奮」を伝達するドーパミンなどの物質が分泌されているからです。

しかしこのドーパミンも含めて、動物の様々な分泌物は、出過ぎると大きな問題になります。私の専門であるストレスホルモンの代表例として、副腎皮質から分泌されるコルチゾールを取り上げましょう。

われわれはストレスを感じると交感神経を刺激し、脈拍や血圧を上げ、脳を目覚めさせます。一方で副腎皮質からは先程のコルチゾールが分泌され、ストレスに対抗します。このホルモンは、タンパク質をアミノ酸に分解し、肝臓でブドウ糖に合成したり、脂肪を分解してエネルギーの供給を促したりするのも役割の一つです。また、細菌やウイルスを排除しようと炎症が起きるといった免疫機能にも関わっていて、炎症や免疫を抑え

る働きも担っています。このように重要なホルモンなのですが、強烈なストレスや長期のストレスを受けると、過剰に分泌されるなどして問題を起こします。例えば脳の記憶に関する重要な部分である海馬の神経組織にダメージを与え、壊してしまうのです。

しかし複雑な現代社会で生きていくためには、ストレスとうまく付き合っていくしかありません。十分な睡眠をとったり、ビタミン類を補給したりすることが大切です。とくに私のおすすめは体を動かすことですね。体を動かしている間だけでも、ストレスの原因から離れられますし、頭を休められます。ここには科学的な根拠があるのですが、かなり専門的になりますので、今回は割愛させていただきます。私も実験や研究でしょっちゅう行き詰まるので、週の半分以上は青葉山を1時間ほど歩いてリフレッシュしています(笑)。

不安や恐怖に男女差はあるか

「女性は怖がりだ」とか「女性は物事を気にし過ぎる」などは、長くそう言われてきただけで、個人的な経験に基づく思い込みに過ぎないかもしれません。では生物学的にはどうでしょう。実は人間に限らず、動物の脳や神経やホルモンには明らかな「性差」、つまりオスとメスの違いがあります。

もちろんこれは、上下や優劣を意味しません。さらに言えば現代の生物学や医学では、性とは完全に二分されるものではなく、「この個体はオスとメスのどちら寄りか」という見方をします。外見的な体の特徴だけでなく、体内の仕組み、個体の発生過程、そしてホルモンなどを詳しく調べることで、はじめて性差について正しく考えることができるのです。

例えば人間の場合、「不安障害」の罹患率は女性の方が明らかに高く、男性の倍以上になっています。不安障害とは、不安が日常生活に支障をきたすほど強く、長く、あるいは頻繁に起こる状態です。動悸、発汗、不眠などの症状があり、「パニック障害」「社会不安障害」なども含まれます。

不安や恐怖の感じ方に、性差はあるでしょうか。もしも「おそれ」の情動に性差があることや、その仕組みが解明されれば、やがては不安障害などの治療にもつながるでしょう。そしてまさにこれが、私が入り組んでいる主なテーマなのです。

不安や恐怖を感じると心拍数が上昇し、その環境から遠ざかろうとするのは、マウスなどの実験動物も人間も同じです。そうした状況では、脳内の複数の神経集団が協調して情報を処理

懸賞

図書カードを
当てよう!

まなびのめクイズ

正解者の中から抽選で3名様に
図書カード1000円分をプレゼント

Q.2 不安や恐怖の情動に関わる脳の中の2つの重要な部分は何と何?

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。深澤昌夫先生の記事もご覧ください。

応募方法

はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え2つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。
※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2023年9月10日 当日消印有効

し、適切な行動を判断します。中でも重要なのが、扁桃体や分界条床核と呼ばれる部分です。

こうした働きをする神経集団の顔つき(どのような種類の細胞で構成されているか)を判別することは、かつては非常に困難でした。しかし東北大学と新潟大学の研究で、特定の神経細胞を発光させて視覚的に確認できるマウスを作ることに成功したため、私の研究も大きく前進しました。メスの分界条床核の中に、オスよりも大きな領域が見つかったのです。メスのその領域の中には、ストレスホルモンを含む神経細胞も、オスよりも多く観察されました。

今はまだ、分界条床核の性差が不安障害の罹患率の性差に影響している可能性があるかもしれない、としか言えません。しかし将来の予防や治療につながるかもしれないため、4年前にこの研究成果を発表したところ、米国の専門誌に論文が掲載されるなど、国際的にも高い評価を得ることができました。

私は市民の方々や子どもたちに、生物学や医学の研究成果を平易に伝えることには大きな意義があると考えています。この記事をきっかけに、脳や心の生命現象に関心を持っていただくとうれしいです。学びは、受け身の態度では限界があります。こうしてご自分で記事を読み、考え、インターネットや書籍を活用することで、さらに学びを広げていただきたいです。私も機会をとらえて、これからも発信を続けていこうと思っています。(取材= 2023年5月11日/東北大学 青葉山キャンパス 情報科学研究科棟 2階 情報生物学研究室にて)



東北大学大学院 情報科学研究科 助教
専門=神経科学・神経内分泌学・情報生物学

内田 克哉先生

《プロフィール》(うちだ・かつや) 1967年東京都生まれ。富山大学理学部卒業。同大学院理学研究科修了。この間、東京都老人総合研究所に在籍。埼玉大学大学院 理工学研究科にて博士(理学)を取得。東京都神経科学総合研究所を経て、2002年、東北大学大学院 情報科学研究科に助手として着任。2007年より現職。



**Web版はより多くの情報を
随時更新しています。**
 キーワード・タグ
検索も
できます

まなびのめ 検索

<http://manabinome.com/>

7 JUL

介護ナイター講座
**『音楽を使ったレクリエーション
～心の健康と介護予防～』**

7月31日(月)
 18:30▶20:30
 無料 要申込

講師 今村真子氏 (特定医療法人松清会南浜中央病院公認心理師・臨床発達心理士・音楽療法士)
 場所 仙台市シルバーセンター第2研修室 (6階) 定員 30名 (先着)
 主催者 (公財) 仙台市健康福祉事業団介護研修室 問合せ TEL 022-215-3711

8 AUG

たまきさんサロン講座
**『新聞紙で涼しい空間(クールエアドーム)
を作ろう! 2023』**

8月 5日(土)
 10:00▶12:30
 無料 要申込

講師 菅原正則氏 (宮城教育大学教授)
 場所 東北大学環境科学研究科棟 1階 展示スペース 2 定員 小学生以上と保護者のペア 12組 24名
 主催者 せんだい環境学習館たまきさんサロン 問合せ TEL 022-214-1233

奥松島縄文村講座「縄文を語る！」
講座 2「墓からみた縄文時代の社会」

8月 6日(日)
 13:00▶15:00
 無料 要申込

講師 山田康弘氏 (東京都立大学教授)
 場所 野蒜市民センター 定員 150名
 主催者 奥松島縄文村歴史資料館 問合せ TEL 0225-88-3927

**企画展「社交と嗜好品
～交際の場の飲食物～」関連講座【1】**
『山台における茶道の歴史と社交』

8月 6日(日)
 13:30▶15:00
 有料 要申込

講師 大泉道鑑氏 (石州流清水派宗家十一世)
 場所 仙台市歴史民俗資料館
 主催者 仙台市歴史民俗資料館 問合せ TEL 022-295-3956

たまきさんサロン講座
**『プラスチックとのつきあいかた
～マイクロプラで万華鏡づくり～』**

8月 6日(日)
 13:30▶15:00
 無料 要申込

講師 松八重一代氏 (東北大学大学院環境科学研究科教授) 他
 場所 東北大学環境科学研究科棟 1階 展示スペース 2 定員 小学3年生以上 20名
 主催者 せんだい環境学習館たまきさんサロン 問合せ TEL 022-214-1233

仙台大学川平キャンパス 公開講座
**『育成世代の保護者・指導者に伝えたい
ウォームアップの話』**

8月19日(土)
 10:00▶11:30
 無料 要申込

講師 浅野勝成氏 (仙台大学助手)
 場所 仙台大学川平キャンパス 定員 30名
 主催者 仙台大学 問合せ kikou@sendai-u.ac.jp

みやぎ県民大学 8月19日(土)・26日(土)・9月2日(土)・9日(土)
**『元気で活き活きと生活するために
～作業は人を元気にする～』 (全4回)**

10:00▶12:00
 無料 要申込

講師 東北文化学園大学教員
 場所 東北文化学園大学内 定員 50名
 主催者 宮城県教育委員会・東北文化学園大学 問合せ TEL 022-233-3451

仙台大学川平キャンパス 公開講座
『スポーツになぜ筋トレが必要か』

8月26日(土)
 10:00▶11:30
 無料 要申込

講師 白坂牧人氏 (仙台大学講師)
 場所 仙台大学川平キャンパス 定員 30名
 主催者 仙台大学 問合せ kikou@sendai-u.ac.jp

みやぎ県民大学 8月26日(土)・9月2日(土)
『調理の科学と食の安全』 (全2回)

10:00▶15:00
 無料 要申込

講師 東北生活文化大学短期大学部教員
 場所 東北生活文化大学短期大学部内 定員 30名
 主催者 宮城県教育委員会・東北生活文化大学短期大学部 問合せ TEL 022-346-1207

館長講座 第5回
『隣の国と考古学 1：サハリン』

8月26日(土)
 13:30▶15:00
 無料 要申込

講師 阿子島香氏 (東北歴史博物館館長)
 場所 東北歴史博物館 3階講堂 定員 290名 (先着)
 主催者 東北歴史博物館 問合せ TEL 022-368-0106


「学び」イベント 参加体験記

■ウクライナ文化体験会(「ペトリキウカ塗り」体験)
 講師：マリヤ・クラヴェツさん (ウクライナ出身、東北大学大学院)
 主催：仙台国際交流クラブ
 開催日：2023年5月20日(土) 10時～ 宮城県図書館 2階 展示室

5月20日(土)に仙台国際センターで行われた「ウクライナの伝統装飾画ペトリキウカ塗り体験会」に参加してきました。ペトリキウカというのは、ウクライナのドニプロの近くにある村の名前だそうです。この村で部屋の壁や家具、楽器などの装飾に使われていた装飾技法が今ではユネスコの無形文化遺産になっています。植物や鳥、蝶などを装飾的に描いたデザインが多いです。猫の毛で作った筆を使うこと、二色の絵の具を筆先につけグラデーションをつくること、筆の形を活かした水滴模様を上手に使うこと、丸い実は指の先を使って描くことなどの特徴があります。モチーフ、筆の材料からも生活に身近な絵なのだろうなということがよくわかります。

体験会では西洋肝木、向日葵など三つのモチーフから好きなものを選ぶことができました。私はツイブーリカという花のモチーフに挑戦しました。



ツイブーリカとはウクライナ語で玉ねぎという意味の単語ですが、玉ねぎの花というわけではなく、描かれた花の形が玉ねぎの断面に似ていることからこのモチーフを玉ねぎと呼ぶそうです。実際に体験を始めてみると、猫毛の筆の柔らかさを感じました。一つ一つの線や形ごとに、筆を運ぶ方向が決まっている、確かにその通りに筆を動かすとお手本に近い雰囲気を出すことができました。きれいなグラデーションをだすには、絵具に水を入れすぎないことと筆の毛の向きに気を付けて動かすことが大事だとわかりました。講師のマリヤさんと二人のアシスタントの方は、私が筆を動かすたびに「とても上手ですね」と褒めてくださり、絵をかくのが苦手な私でも楽しく体験することができました。

私が参加した回には私のほかに二人の体験参加者がいました。一人は高校生でドイツ人とウクライナ人の両親を持つ留学生、もう一人はウクライナ出身で現在仙台の日本語学校に通っている方でした。体験中に講師の方たちとウクライナ語で会話している姿を見て、うらやましいなと思っていましたが、体験終了後二人と日本語で話をすることができました。仙台にもいるいるなルーツの人が、いろいろな事情で生活しているのだなあと改めて思いました。

最後にウクライナ国旗カラーの紙で出来たスタンドをもらい、自分の描いた絵を飾って持ち帰りました。絵を描くことを楽しむという、私にとっては非常に珍しい体験ができた良い休日になりました。(仙台市 たぬきのこ)


Voice Park 読者と編集部
 のキャッチボール

第60号 学ぶ

学生の頃は苦痛だった学びが、今は余裕があって楽しく感じます。(仙台市青葉区・42歳)
編：素晴らしいことですね！楽しく学ぶということが一番知識を身につける秘訣だと感じます。

大人になっても学べる事はありがたいですね。(柴田郡柴田町・55歳)
編：本当にそうですね。年齢や経験を積んでからこそ、自ら学びたいことを選択できるということは、生きがいづくりにもつながっていきますね。

公民館には久しく行ってませんが、図書もあるし行ってみようと思います。デンマークの税負担はすごく高いけど、それに見合った行政サービスがあるし、政治にも意識が高い。我が国日本はこれからどうなるのかなあ……。 (大衡村・57歳)
編：大人の「学び」の場としても公民館を大いに活用したいですね。受け身だけでなく、そのあり方にも主体的に関わっていくことが「公民」として必要かもしれません。社会に対して主体的に関わる市民の経験とそれによる意識の変化が、行政・政治に対するものにもつながっていくでしょう。

松田道雄先生の世代を超えた交流を実現できる場をコーディネートする仕事に興味が湧きました。昔、多く存在した駄菓子屋の地域への役割の大きさも実感できました。原義彦先生の公民館の地域づくりへの役割も理解でき、今後は利用したいと思いました。また、国民が幸せを感じている国の上位にあるデンマークの子どもへの教育についても興味を持ち、今回も様々な学びがありました。(仙台市青葉区・35歳)
編：「学び」について本当に大切なお話をうかがえたと思っており、とってもよく受けとめていただき感謝します。学んだことが、何かしら皆様の新たな一歩につながったら望外の喜びです。

「学び」イベント情報や先生たちのインタビューを読みました。読みいってしまいました。勉強になるものばかりでした。機会があれば企画展などにも足を運んでみたいなと思いました。また、わたしは読書が好きなので図書カードが当選したらとても嬉しく思います。当選することを祈っています。(仙台市泉区・29歳)

編：とても嬉しいご感想をありがとうございます。企画展やイベント等にご参加された際には、ぜひ体験記をお送りください。こちらから抽選で図書カードプレゼントを行っておりますよ。

その他のお便りと編集部からのコメントはWeb版でご覧いただけます。


参加体験記募集中！

読者の皆様に参加された、「学び」イベントの感想やレポートをお待ちしています。掲載採用させていただいた方のうち毎月1名様に1000円分の図書カードを進呈！ご投稿いただいた全員にもれなく粗品をプレゼント！
 ※採用の可否、図書カード当選者は編集部に一任いただきます。
 「まなびのめ」編集部へはがき、FAX、E-mail、Web投稿フォームよりお送りください。

第60号 まなびのめクイズの正解発表!!

「まなびのめ」第60号懸賞クイズの正解は下記のとおりです。

Q.1 人生や社会を変えうる「平等な会話」を表す松田先生による造語は何？ 答え【等話】
 Q.2 現在、日本全国に「公民館」はおよそいくつある？ 答え【1万3千】

今号も「まなびのめ」クイズを実施しております。正解者の中から抽選で3名様に図書カードが当たりますので、奮ってご応募ください!! ※詳細は研究者インタビューページをご覧ください。

「まなびのめ」配色法：藍色目(かさねのいろめ)
 第61号・夏／「破菖蒲」(ha syōbu)

これからの主な「学び」イベント
 詳細はWeb版に掲載しております。http://manabinome.com/

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定されていたものが中止・延期となることがあります。最新の情報は主催者のホームページ等でご確認をお願いいたします。

8 AUG

放送大学宮城学習センター公開講演会
『オランダ美術にあらわれた女性たち』

8月26日(土)
 13:30▶15:10
 無料 要申込

講師 尾崎彰宏氏 (東北大学総長特命教授・放送大学宮城学習センター客員教授)
 場所 東北大学片平さくらホール (2階) 定員 120名
 主催者 放送大学宮城学習センター 問合せ TEL 022-224-0651

せんだい文学塾 8月講座

8月26日(土)
 16:00▶18:00
 有料 要申込

講師 三浦しをん氏 (直木賞作家)
 場所 仙台市戦災復興記念館 定員 60名
 主催者 せんだい文学塾 問合せ sendaibungakujuku@gmail.com

東北工業大学「地域未来学」講座 7
**『知っておきたい
地盤リスクのはなし』 (オンライン)**

8月29日(月)
 18:00▶19:00
 無料 要申込

講師 河井正氏 (東北工業大学工学部都市マネジメント学科教授)
 場所 Zoomによるオンライン開催 問合せ TEL 022-305-3818
 主催者 東北工業大学地域連携センター 地域未来構築事業地域未来学

仙台大学川平キャンパス 公開講座
**『スポーツルールを考える
その歴史と変遷』**

9月2日(土)
 10:00▶11:30
 無料 要申込

講師 中里寛氏 (仙台大学教授)
 場所 仙台大学川平キャンパス 定員 30名
 主催者 仙台大学 問合せ kikou@sendai-u.ac.jp

仙台文学館ゼミナール 2023 9月2日(土)・9日(土)・16日(土)
**『新美南吉の童話を読む
晩年の作品を中心に』 (全3回)**

10:30▶12:00
 有料 要申込

講師 大木葉子氏 (東北工業大学准教授) ※申込締切 7/26 (水) 必着
 場所 仙台文学館 定員 60名
 主催者 仙台文学館 問合せ TEL 022-271-3020

仙台文学館ゼミナール 2023 9月3日(日)・10日(日)・17日(日)
『「万葉集」を味わう』 (全5回)

(申込締切 7/26 (水) 必着) 10:30▶12:00
 有料 要申込

講師 津田大樹氏 (一関工業高等専門学校総合科学人文社会領域教授)
 場所 仙台文学館 定員 60名
 主催者 仙台文学館 問合せ TEL 022-271-3020

仙台大学川平キャンパス 公開講座
『部活動の地域移行について考える』

9月9日(土)
 10:00▶11:30
 無料 要申込

講師 松本文弘氏 (仙台大学教授)
 場所 仙台大学川平キャンパス 定員 30名
 主催者 仙台大学 問合せ kikou@sendai-u.ac.jp

**“食”で「つながる」仙台と山形～ラーメン消費量日本
一に返り咲いた山形市の視点から～六軒丁学舎(ろっ
けんちょうがくしゃ) 2023～新しい「学び」場⑤～**

9月9日(土)
 10:00▶12:00
 無料 要申込

講師 後藤好邦氏 (山形市役所)
 場所 土曜キャンパス ホイ記念館 コラトリエ・リエゾン 定員 30名
 主催者 東北学院大学研究支援課 問合せ TEL 022-264-6362

**東北工業大学「地域未来学」講座 8「里山・有機
農業がもたらす生物多様性の未来：地域資源と
地理的表示の保護(里山・森林編)」 (オンライン)**

9月9日(土)
 13:30▶14:30
 無料 要申込

講師 香坂玲氏 (東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻教授)
 場所 Zoomによるオンライン開催 問合せ TEL 022-305-3818
 主催者 東北工業大学地域連携センター 地域未来構築事業地域未来学

**企画展「社交と嗜好品
～交際の場の飲食物～」関連講座【2】**
『嗜好品の歴史的变化に伴う健康への影響』

9月9日(土)
 13:30▶15:00
 有料 要申込

講師 清治邦章氏 (花京院健康管理センター所長)
 場所 仙台市歴史民俗資料館
 主催者 仙台市歴史民俗資料館 問合せ TEL 022-295-3956